

「アメリカ皆既日食の旅」

桑田直宏

人生最終章の旅の大きな1ページになるアメリカ皆既日食から無事に帰国しました。

最初に見たのは2001年6月のアフリカ大陸南部の皆既日食でした。ザンビアで見た初めての皆既日食は最高の天気恵まれ、漆黒の空に輝くコロナとピンク色のプロミネンスは今でも鮮明な印象として脳裏に刻まれています。これが最初で最後と思っていたのに、その時の感動が忘れられず、2009年7月の49年ぶりになる日本近海の皆既日食は友人と上海に出かけました。梅雨明けの空で見事な皆既を見るはずが、もどり梅雨という予想もしなかった天気になり、皆既を全く見ることなく、皆既終盤は土砂降り雨の中で迎えてしまいました。

それでも日食初めて体験者の友人はいたく感動し、次のアメリカも絶対行くと決意をしたのでした。

今回の皆既日食は広大なアメリカ大陸を横断しています。また交通の便もよく、観光も期待できるということで大変な人気になることが予想されていました。案の定、募集が出る皆既日食ツアーをサイトや電話で予約しようとしたのですが、ことごとくキャンセル待ち状態。そこで今回は個人旅行となりました。

せっかくアメリカに行くのなら観光もしたいと考えたのですが、天候や皆既の条件を考慮すると標高1500mのワイオミング州のキャスパー付近がベストだと判断しました。日本からは成田からデンバーの直行便があり、そこからレンタカーなら約5時間で現地に着けることがわかりました。そのことを友人に伝えると、彼の友人のダニエルがたまたまデンバー郊外のボルダーに住んでいることがわかり、結局ダニエルご夫妻にお世話になることになりました。3人の60代の珍道中の旅が決定しました。

デンバーには8月18日の夕方に到着し、レンタカーでダニエルの家に無事に到着しました。ダニエルの家



は校外の住宅街にあり、仕事が溪流釣り関連のグッズをウェブ中心に販売されていて、友人とは釣りで親しくなったとのこと。

その日はダニエルの家泊してもらい、翌日には現地に向けて出発です。彼によると、アメリカ国内も90年ぶりの皆既日食にすごい盛り上がりになっているとのこと。大変な混雑が予想されるために観測地には2日前に入ることになりました。当日も含めて3日間の水道設備のないキャンプ場でのテント生活の始まりです。

天気は予想通り、快晴が続きました。空気が乾燥しているため、汗もかかずに快適なのですが、テントでの寝泊まりは苦行以外の何物でもありません。夜は10度以下に冷え込み、テントの周りには放牧した牛がうろうろしています。時差ボケも含めて大変でした。

食事は思ったより豪華です。ダニエル夫人は日系人で、私たちのことを考えた食事を用意してくれていました。

現地時間で8月21日が皆既日食の日です。

現地では10時22分に太陽が欠け始める第1接触。皆既の始まりは11時42分です。皆既の継続時間は約2分30秒です。現地では朝早くから車が次から次へとやってきます。私たちのいるキャンプ場はダニエルの友人のお蔭で安心して観測できました。

皆既日食の素晴らしさは実際に自分で体験しないとわかりません。食分が進み太陽の光がどんどん弱まり気温が下がり10度を切りました。寒いくらいです。皆既直前の雰囲気はとても言葉では表現できません。何度も皆既の撮影手順をシュミレーションしてきたのに、いざ本番になって暗くなると、心が高揚して何から始めていいのかわからなくなるのです。

今回は防振双眼鏡でコロナとプロミネンスをじっくりと観察することが目的です。撮影はシータでの360度動画と望遠レンズによる4Kでの動画です。基本的には皆既直前に撮影を始めているので、皆既日食を最後までじっくりと自分の目で観察することが出来ました。

皆既2分前に動画撮影を開始。空はどんどん暗くなり、周りからは叫び声が聞こえてきました。皆既です。カメラの液晶に映し出されたコロナのピントを確認してから空を見上げま



した。そこにはすばらしい光景が広がっていました。美しいコロナです。すぐに双眼鏡を手にとって防振スイッチをオンにしました。思わす声を出してしまうコロナが見えます。コロナの複雑な流線構造がよくわかるのです。アフリカでも防振双眼鏡で観察しましたが、こんなにきれいなシルクのような流線は見えなかったと思う。素晴らしいとしかいようがありません。ピンク色をしたプロミネンスも確認できます。特に 2 時の位置にあるのはループ状でした。2 分 30 秒なんてあっという間です。右側のコロナが大きくみえてきて、やがてピンク色をしてループ状のものが見えてきました。彩層です。これは津村さんから教えていただきました。はっきりと確認することが出来ました。

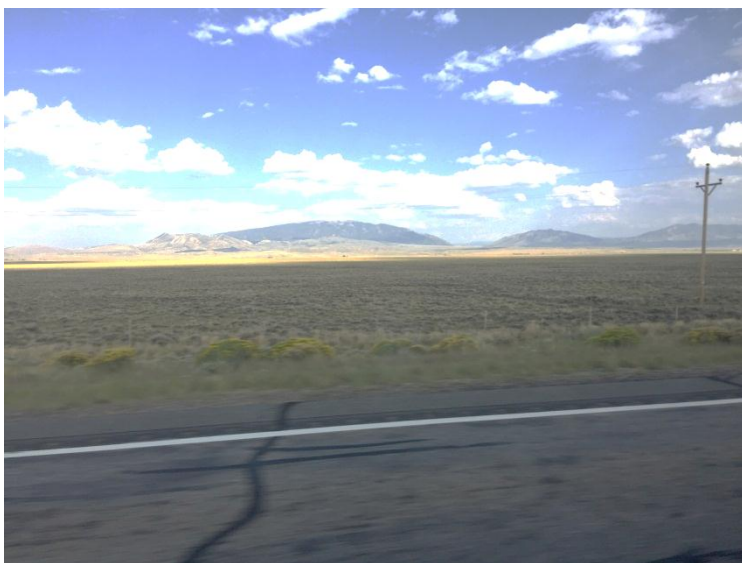


すぐに双眼鏡から目を離して肉眼で太陽を見つめました。黒い太陽の右側が明るく輝きました。ダイヤモンドリングです。誰がネーミングしたのかわかりませんが、まさに空に輝くダイヤモンドのような素晴らしい輝きでした。



あっという間に平常の明るさに戻りました。さっきまで皆既日食を見たのが実感できないような不思議な感覚になりました。お付き合いをしてくれたダニエル夫妻や友人と握手を交

わしました。お付き合いをしてくれたダニエルは思いもよらない光景にすごく感動したようです。7 年後のアメリカ皆既日食もぜひ見たいと言い出し、そのときの再会まで決まってしまいました。



ボルダーへの帰り道は違った意味で印象深い光景となりました。それは車の渋滞です。一斉に帰る車ではるか地平線まで車が渋滞したのです。ダニエルの自宅に到着したのは 12 時間後

の夜中の 2 時でしたが、人生最終章の一生の思い出をしっかりと心に刻むことが出来ました。